



留萌地方中体連大会

卓球：団体3位

バスケットボール：2位

陸上競技
男子 4×100mR 優勝【全道】
個人1位(複数名)【全道】

軟式野球：優勝【全道】

剣道：団体・個人【全道】

柔道：団体優勝【全道】
個人1位(複数名)【全道】

バレーボール：4位

大変お疲れ様でした！

国内に限らず世界各国にてサッカーのW杯が盛り上がっています。私は普段サッカーを頻繁に観戦することはないのですが国際試合はよく観ます。今回も日本代表の懸命なプレーには心を動かされました。結果は残念…。でも強豪相手に大健闘でした！

さて、留萌管内でも中学生の「スポーツの祭典」ともいふべき、留萌地方中体連各種大会が、先日まで管内それぞれの会場にて実施されました。

ここ数年、クラブチームとして参加している軟式野球は、見事に優勝し全道大会へ。かつては、留萌管内の中体連ではチーム数の多い種目でしたが、今年はずいぶん3チームのみ…。そんな中ですが、他のチームを圧倒すべく堂々たる優勝でした。昨年に続き2年連続全国大会への期待が高まります！

今年度の本校はバスケットボールの当番校でした。羽幌は2位で残念ながら全道大会へは届きませんでした。3年生を中心にベンチも含め、一丸となって戦っていました。特に、1回戦目(vs 留萌中)は終始接戦で、最後はなんと「1点差」で、勝利をつかみました！これぞバスケの醍醐味！ドキドキ・ハラハラ

バレーボールは合同チームのため、大会までの練習で戦術を確立することなどに、とても苦労したことだと思われます。しかし、試合では、以前からチームメイトだったかのような雰囲気、お互いに声を掛け合い、絶妙に連携した動きでボールを拾いまくる姿に自然と拍手を送っていました。

卓球は、地域おこし協力隊の内田さんが指導者資格を取得して外部指導者を担ってくれています。春からの熱心なご指導と中体連当日の采配によって、子どもたちの力を引き出してくれました。結果は団体戦3位、個人戦は残念ながら予選敗退でした。結果も大切ですが、専門的なご指導によって、子どもたちは卓球の奥深さを味わうことができたのではないかと思います。

柔道は、管内的に年々選手が少なくなり、今年は本校以外の参加は港南中・遠別中のみで、しかも各階級1名という大変小規模な大会となりました。そんな中でも、本校の選手たちは、緊張しつつも日常の稽古の成果を存分に発揮し、団体も個人も全道大会への出場権を手に入れました。

剣道は、今年から地域クラブ「オロロン剣道クラブ」として苫前と合同で団体戦に出場できるようになりました。ただし、管内には団体が1チームしかないので自動的に全道進出になり、個人戦のみ行われました。今年は、全道大会が留萌市のため、今回個人戦に出場した全員(男子7名)が全道出場となり、本校の男子1名も全道に進出することになります。

なお、陸上競技については、前号でお伝えしたとおり、前日までの降雨の影響で予定期日には実施できなかったため、旭川市の通信陸上大会を管内中体連大会に兼ねることにしました。結果、男子リレーをはじめ留萌管内1位や標準記録突破によって、たくさんの選手が全道大会に進出することになりました！

今から約45年前、私は中学校のバスケット部に入部しました。当時は先輩・後輩の関係が厳しく、先輩との会話で敬語を覚えました。道具の準備や片付け、更衣室の清掃、ボール磨きなどは全て1年生のシゴトでした。「先輩より先に挨拶」など理不尽とも思える「掟」もありましたが、今となっては社会生活での振る舞いに生きるものがたくさんありました。ただし「練習中、水を飲むのはダメ」って、今ではあり得ません！

新米教員として野球部を任されることになり、ここでも経験が生かされました。当時の中学校は「部活動で礼儀やマナーを身に付けさせる」が常識のようなことでした。

時を経て教頭になり、部活動指導から身を引くこととなりました。校長になって1年が経とうとしたとき、世界中がコロナ禍に包まれました。このあおりで翌年は中体連史上初の大会中止となりました。それから数年間は部活動の雰囲気が一変しました。時が過ぎて引き受けた当番校にて、参加する子どもたちを見て愕然としました。「挨拶をしない」「先輩にタメロ」「駆け足で動かない」などなど…。

「そうか！ コロナのせいで先輩の良き手本を見ていないんだ…。」そう思って納得しました。

そして、今は地域展開によって少しずつ学校から部活動が離れていきます。北海道中体連の会議では、部活やクラブでのマナー指導が課題だと話題になります。今は「厳しく鍛える」よりも「優しく諭す」時代です。体育会系とは言え、昨今は厳しく強制するのはハラスメントになるんでしょうね…。

今年は本校がバスケの当番校でした。羽幌の子たちは前日の会場準備の時、次々とやってきて手伝ってくれました。後片付けは、保護者の皆さんも手伝っていただきました。子どもたちが地域クラブで挨拶や礼儀・マナーを鍛えられている、そして、大人も率先して動いている、という姿に安堵しました。

もうすぐ夏休み

一律の宿題はありません

今年度の3つの学校目標のうち、「学びを求める羽中生」を実現すべく、その手立ての一環として、長期休業中は一律の宿題を出さないようにします。子どもたちが自身の学習状況を適切に振り返り、得意分野の伸長や苦手教科の課題克服など、一人一人に必要な学習に取り組むことを最大の目的としています。もちろん、これは長期休業に限ったことではなく、日常的に目指してほしい姿なのですが、せめて、教科書（授業）が進むことのない夏休みや冬休みに、実践力（行動することができるチカラ）を高めてほしいと願っています。

ただし、自身を適切に「振り返るチカラ」は誰もが得意としているわけではありません。苦手な子については、学級担任や教科担任と相談しながら計画を立てていくこととなります。これは、2年前から取り組んでおり、「苦手教科に集中できた」「自分の計画に責任をもてた」など、子どもたちの声から一定の成果が見られるようになってきています。

ご家庭におかれましては、ぜひお子さんの「勉強を自らガンバろう」とする姿を応援してあげてください。

一人一人の力は一律ではないからです

自転車の安全運転で命を守る意識を



4月から、16歳以上の自転車運転違反は「青切符」として、処罰されるルールに改正されました。中学生は対象外ですが、自身の命を守るため、自転車運転には十分に注意しなければなりません。

そこで、6月17日に羽幌警察署交通課の皆さんによって、自転車運転の安全教室を行っていただきました。

ドラマ仕立ての動画から「マスター」が飛び出てきて(!?)自転車運転のルール違反（危険運転）について、実演しながら説明してくれました。終わりには子どもたちの質問にも返答してくれて、楽しみながら学ぶことができました。

いくら体力があっても、いくら体が強くても、交通事故に耐える体の人間は存在しません。ちょっとした不注意が一生後悔することになったり、場合によっては命を失ったりすることにもなります。ご家庭におかれましては、「登下校以外にもヘルメット着用」をはじめ、安全運転についてご指導をお願いいたします。

